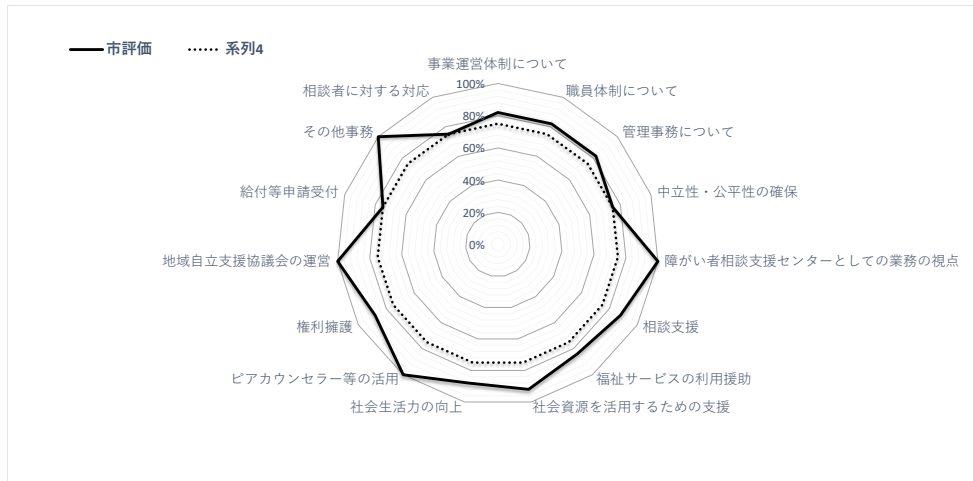


令和7年度 吹田市 障がい者相談者支援センターの業務実施状況の評価結果

センター名:内本町障がい者相談支援センター

法人名:社会福祉法人コミュニティキャンパス

評価対象年度:令和6年度



※基準値 については、すべての評価項目で○評価の場合(75%)のグラフです。

最終評価結果(評価項目数 計38)	
◎評価	17
○評価	21
△評価	0
×評価	0

評価の基準	
◎	委託相談支援事業仕様書を遵守し、地域の窓口としてセンターに求められる以上の役割を果たし、非常によくできている。
○	委託相談支援事業仕様書を遵守し、地域の窓口としてのセンターの役割を果たし、適切である。
△	委託相談支援事業仕様書を概ね遵守しているが、地域の窓口を担うセンターの役割として、一部に課題がある。
×	委託相談支援事業仕様書を遵守しておらず、地域の窓口を担うセンターの役割として、改善が必要である。

評価(評価項目数 計38)に関する市からの総括
<p>令和6年度(2024年度)の相談支援の実績は2,051件で、令和5年度(2023年度)の1,935件と比較すると、106%となった。</p> <p>①組織・運営体制(事業運営体制について4項目、職員体制について4項目、管理事務について4項目、中立性・公平性の確保2項目) センター内で相談記録システムや毎朝・毎夕のミーティングを通して日頃から情報共有や対応について検討し、チームで支援を行っている。支援困難ケースや緊急対応が必要なケースについては、優先課題を整理して、迅速に対応している点を評価する。 職員体制について、職員の急な退職、法人内の異動が重なったことより3月の1か月間について職員2人体制となった。迅速に職員募集を行い、法人内での人員配置調整の検討等の対応を適切に行っているが、今後については安定した職員体制の維持に努めること。</p> <p>②センターの役割(障害者相談支援センターとしての業務の視点5項目) 地域会議やイベントを通して、顔の見える関係づくりを日頃から進め、地域の課題の把握に努めている。加えて、毎夕のミーティングを利用して職員間で情報共有や対応検討を行うことによって、相談者等の状態に応じた支援や対応に活かすことができている。筆談用のホワイトボードやサインガード、タイポスコープ、老眼鏡等、障がい者に配慮したコミュニケーションツールを窓口を設置している。知的障がいの方へはノートに図や絵を書く、ひらがなで書いているチラシを用いるなど、わかりやすい説明を心掛けている点を評価する。</p> <p>③相談支援事業(相談支援2項目、福祉サービスの利用補助3項目、社会資源を活用するための支援3項目、社会生活力の向上2項目、ピアカウンセラー等の活用1項目、権利擁護2項目、地域自立支援協議会の運営1項目、給付等申請受付1項目、その他業務1項目) 福祉サービスファイル(種類ごとに分類)、訪問看護ファイル、居住系ファイル等でカテゴリ化しており、一緒に見てもらうことにより、特定の事業所に偏ることなく複数の選択肢を提示することができている。社会資源一覧をセンター内のラックに配架するほか、ファイリングして保管しており、相談者が情報収集しやすいよう配慮している。必要に応じて、ピアカウンセリングや当事者団体の情報提供を行い、令和6年度には実際にギャンブラーズアノニマス(ギャンブル依存症を抱える方たちの自助グループ)につなげたケースがあるなど、利用者の多種多様な状況に応じて支援を実施している点を評価する。</p> <p>④相談者の満足度(相談者への対応3項目) 言葉遣いや態度、服装等、相手に不快感を与えないよう配慮しており、適切である状態を維持している。利用者アンケート等から職員の対応や知識への満足度が高い点を評価する。</p>